



第220号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会理事長 望月千恵子
編集人 会報編集委員長 宮川まゆみ
印刷所 須坂新聞社

「教育会を縁として」

上高井教育会理事長 望月千恵子



上高井教育会が私立教育会として

設立され発足してから今年には百二十九年目です。創立当時の会員は五十八名でした。今年度は六月現在三百七十名の会員を擁する『一般社団法人 上高井教育会』として活動しています。名称は変わっても「子どもたち

会・講習会・研究大会等、教職員の職能向上・研修並びに教職員への研究助成、及び児童生徒・地域住民等への学習支援・健全育成事業』を、挙げています。職能向上に向け、自ら学び授業力

ていただけることでしょうか。同好会は、同好の仲間と共に豊かな自分をつくっていく会であり



みに、夏期講演会は篠原菊紀先生の『脳を鍛える活脳トレーニング』を予定しています。多くの先生方はもちろん、地域の方々とも一緒に聴講できたらと思います。
めまぐるしく変わる現在の日進月歩の社会において、子ども

教育会だより

- 4・1 役員選出公示
2 第一回学校代表者会
7 信教代議員選挙
9 第一回理事会
17 研究委員長会
21 教育会会計監査会
23 第二回理事会
28 第二回学校代表者会
5・2 研究総委員会研究委員会・同好会
17 一般社団法人上高井教育会
17 定時社員総会
○平成26年新理事の承認
○平成25年度会務報告、決算の承認
○会員意見発表
豊洲小 小林智子養護教諭
「家庭と連携して行うメディアコントロールの指導を通して見えてきたもの」
○講演 伏木久始先生
「『子どもと共に創る授業』における省察的実践とは」
21 上高井賛助会総会
22 研究推進委員会
28 新任者教育懇談会
29 教研学校代表者会
6・4 第三回理事会
6 第三回学校代表者会
7 同好会②
12 同好会③
18 上高井教育会報第220号発行
22 研究委員長会

(日野小)

実践と省察の専門性を求めて

研究委員長会長 岡田哲夫



発展社
会から成
熟社会へ
と移行し
始めてい

る日本の教育は、今までの平等性や画一性の確保から多様性への対応へと変化を求められています。学校現場としても、諸事情で集団に入れない子、つまずきの大きい子、学力の高い子等に対してどのように指導・支援したらよいか悩んでいるという現実があります。

本研究委員会のよさは、私たち自身が必要感に基づいて自由により主体的に研究できるということであります。課題解決に必要なのは、「井戸から水が出るまで掘り続ける」という気概とねばり強さではないでしょうか。

本年度は、信州大学教育学部教授伏木久始先生を中心講師にお願いして、四年目の研究となりますが、伏木先生には、幅広い見地から、教科を越えて指導・助言していただいております。

研究課題であります「子どもと共に創る授業」は、各教科及び各校で抱えております今日的な課題解決に通じるものでありますので、子どもたちのために、私たち教師自身のために、思いっきり実践してください。必ずや道は開けると思っています。



す。そして、その研究がどうであったのか振り返り、次の取組につなげていくための方策をメタ認知手法で導き出していくことが、省察の実践だと思えます。皆様の研究が花咲きますことをご期待申し上げます。

(高山中)



一 はじめに

生徒の作文の抜粋です。

「あいさつは大切だ。」よく大人が口にする言葉だ。でも、その言葉に確かな証拠はなかった。(中略)毎年、私の中学校の二年生は職場体験学習という進路学習を行っている。それをふまえて、ある会社の社長さんが講演をしてくださった。(中略)「あいさつは相手の存在を認める事」私は社長の言葉聞いた時、今まで何となくしてきたあいさつの本当の意味を知ることが出来た。」

二 中核活動の実際

本校では職場体験学習を中核に据えて、生徒の自立につながる力「コミュニケーション能力」を育もうと、以下の見通しのもと、第二学年で実践してきた。

【第一期】四月〜第一回職場体験学習(七月)

○ねらい：他の人のためになることを考えて行動する。

○主な活動：応援団、職場体験学習

○主な支援：市内企業やジョブカフェ信州の方の講演

○生徒の意識：選手に気持ちが届く応援をしたい。そのためには、二年生が自ら声を出すことが大切だ。

職場体験学習では、相手のことを考えて行動したい。そのためにも、自分から挨拶や質問などをする。

○学級の目標：「他の人の役に立つ」「笑顔で接する」

○生徒の振り返り：職場体験学習では、挨拶はできたが、もっと自分から声をかけたり、行動できたりするとよかった。

【第二期】第一回職場体験学習〜第二回職場体験学習

○ねらい：相手のことを考えて自分から行動する

○主な活動：職場体験学習

○主な支援：教科等での話し合い活動

○生徒の意識：一回目は100%自分から行動できたわけではない。気ばたらきをして20%の行動をする。

○学級の目標：「自分から100%」

○生徒の振り返り：挨拶など、当たり前に行うことの大切さを感じたし、今回は自分から考えて行動できた。日常の生活にも生かしたい。

【第三期】第二回職場体験学習〜生徒会改選

○ねらい：学校全体の生活、づくりを意識し、「自分たちでつくりたい学校」を考える。

○主な活動：生徒会引き継ぎ

○主な支援：生徒会主催の生活等改善を図る活動、三心清掃

○生徒の意識：決まりを守らない等、自分勝手な生活はよくない。当たり前だが当たり前にできる学校にしたい。

○学級の目標：「当たり前のこととして 三心清掃、挨拶」

○生徒の振り返り：学校全体のことを初めて考えた。清掃を二年生から変えていきたい。他の学年の人に考えを伝えるのは難しい。

三 生徒の成長

実習先の事業所へは、生徒の様子についての評価をお願いし、



自発性や気づきについての良い評価をいただいた。

職場体験学習の中で、生徒に据えたこの活動の中で、生徒達は自立について考えを深め、日常生活をより良いものにしようとする意識を高めることにつながった。

最後に、職場体験学習を終えた生徒の感想を記す。

「事業所の方から良い評価をいただき、自分でもできるんだ、という自信が持てた。お客さんのことを考えながら実習ができたからだと思う。」(新津朋典)

同好会が求めているもの 同好会に求めるもの

同好会会長 古畑 一彦



地域や保護者の皆さんとの信頼関係を強く

することは大事なことです。それらの方々との間に、ものごとの見方、とらえ方、考え方にズレはないだろうかと思慮することがあります。もしあるとすれば、本物の信頼関係を築くことはできません。私たちは一日の生活の半分以上を学校という限られた空間と

同好会充実のために

体育同好会長 富沢 孝

体育同好会は毎年二十五名前後の会員で活動をしていきます。活動内容の一つめは文科省の伝達講習会や様々な運動種目の実技講習会です。過去五年間の実技講習を拾いあげてみると「初歩の水泳指導」「ボール運動・体づくり運動・マット運動」「社交ダンス」「ソフトバレーボール」「体ほぐし運動」「リズムダンス」など、どれも日々の授業に直接かかわるものばかりです。二つめとして北信

学校体育研究会を上高井で開催する年は、郡研究委員会とタイアップしながら指導案づくりなどを通して互いに学び合うことで研修を深めました。本年度の夏期講座は、体幹トレーニングに焦点をあてた実技講習会を実施します。また体育科の校長先生方から指導案づくりや体育授業の具体的な指導法、さらには今後の学校体育のあり方などについての学習会・講演会を計画しています。

め、人間関係を広げることが必要になるのです。同好会は教科にこだわることなく自発的に活動し合う場であり、みなさんへも講習会等への参加を呼びかけています。ですから、さまざまな分野の方々や交じり合う場となりうるものが同好会です。研究委員会は教員としての専門性、教科・学習指導の専門性をより高めていく場であり、同好会は教員として、さらには社会人としての厚みを増していく場であると考えます。この大切な研究委員会と同好会を今後もさらに盛りたてていくためによろしくお願ひします。(豊丘小)



私たちが実技講習や研修を通して力量を高めることは、子どもたちの学びの深まりにもつながります。今後一層体育同好会の充実を図るために、会員数を増やすとともに郡研究委員会との連携も強めていきたいと考えています。(墨坂中)

本校の宝

64

つながり

須坂支援学校

須坂支援学校はとても小さな学校ですが、とても多くの「つながり」があります。それが本校の宝だと思っております。須坂小学校と併設していることから、子どもたちは日常的に交流しています。休み時間にはいっしょに、とても楽しそうに遊ぶ姿が見られます。朝の集会活動や、音楽会、運動会、遠足などの行事にも参加し、同世代の友達とのつながりを深めています。



また居住地校との交流も計画的に行っています。中学部では常盤中学校の生徒と、そして土笛の会の皆さんとの交流もあります。放課後の生活や下校の支援をしてくださる方々とのつながりも多数あります。さらに校外では、ぷれジョブの活動を通じて地域の企業の方やサポーターの方とのつながりも広がっています。

最近、つながりの大切さを強く感じるでございまして。五月のある日、小学部のAさんがふらっと教室から校外に出てしまったことがありました。幸いにもすぐに学校の隣にある市立図書館で見つかり、無事戻ってくることができました。この時、Aさんが図書館の方角に向かって歩いていくのを須坂小学校の六年生が見かけ、心配して担任の先生に連絡をしてくれたことから、すぐに見つけることができましたのでした。日常的な交流の中で培われた心が、この六年生の行動につながったのだと思います。今、そして将来、この地域で生活していく子どもたちにとって、多くの人のつながりがあることは、本当に心強いことです。これからもたくさんつながりを大切に、地域の学校という特色を生かしていきたいと思っております。(小平直司)

精一杯自分たちの音を響かせよう

中澤雅子

旭ヶ丘小学校には、四年生から六年生の希望者による金管バンドがあります。これは、昭和四十六年の開校当時、初代PTA会長鈴木武氏が「伝統のない新しい学校に学ぶ子どもたちが、他の学校に誇れるものを」との願いで楽器を寄贈して下さったことが始まりです。トランペット、ドラム、吹奏楽、金管バンドと編成は変わりつつも受け継がれてきた、今や旭ヶ丘小学校伝統の活動です。

「精一杯、自分の花を咲かせよう」の学校目標のもと、金管バンドも、一人ひとりが自分の音をしっかりと出し、心を一つに、精一杯音楽を響かせようと頑張っています。



春には相森中学校吹奏楽部スプリングコンサートに参加し、加えて中学生との合同演奏は、夏の長野県小学校バンドフ

から良い刺激を受けました。今は、夏の長野県小学校バンドフ

エスティバルに向けて練習しています。二学期は、吹奏楽の夕べ、運動会のグラウンドドリル、須商マーケット、校内音楽会、北信地区管楽器交歓演奏会と続き、十二月のミニコンサートが六年生最後の演奏となります。この活動を支えて下さる保護者や地域の方々への感謝を忘れず、子どもたちと音楽の楽しみを広げていきたいと思えます。(旭ヶ丘小)

清涼談義



カット 高山小 田鍋隆行

曲全(きよくぜん)

上野恵佐夫

中国の故事に「曲なればすなわち全し」略して「曲全」という言葉があります。曲がっているからこそ生命を全うできるという意味ですが、平たく言う、目立って先頭に立つより後からついて行く方がいいということです。人間は目立っているときは成長が止まって伸びき

ているときであり、少し曲がっているくらいの方がいざ成長するとうまく伸びて結局成功できるという老子の教えです。



優勝や地区大会の大地に、当然の時期です。大事な成果を發揮する。

会への出場といった目標を立てて取り組んでくるわけですが、勝つことだけが目的ではなく、最後の大会をどんな気持ちで迎え、部活動をどう終わるかということが顧問としてはとても重要です。私が担当するサッカー部は残念ながら郡大会で敗退してしまいました。爽やかな最後を迎えることができたと感じています。

曲全のように、一番になることがすべてではなく、二番でもいいから、自分の持つ能力を發揮しつつ、人当たりよく謙虚である人間が最後には人生の成功者となるということを、自身も含めてあらためて感じています。(常盤中)

編集後記

平成二十六年年度、会報二二〇号を発行し、無事会員各位にお配りすることができました。お忙しい中、原稿をお寄せいただいた会員の皆様、心より感謝申し上げます。

これまでの良き伝統を継承しつつ、多くの会員の皆様に親しみを持ってお読みいただけるよう、今号からカラー化にしま

した。いかがでしょうか。感想や改善すべき点など、率直なご意見をいただけたら幸いです。何かありましたら、各委員長までご連絡ください。

- 委員長 宮川まゆみ(豊洲小)
- 副委員長 西原秀明(仁礼小)
- 委員 遠藤和樹(常盤中)
- 高橋美津子(旭ヶ丘小)
- 浅野恵子(高山中)
- 清水幸子(栗方丘小)
- 田中みき(日滝小)
- 筒井万由美(井上小)

平成26年度 県外視察者名簿 (敬称略)					
	学校名	氏名	視察目的・テーマ・内容等	視察方面	実施時期
1	井上小	松澤裕子	どの子も楽しくわかる授業のユニバーサルデザイン化	関東	2学期
2	相森中	飯泉大輔	第32回関東ブロック中学校社会科教育研究大会参加	群馬県	10月21日
3	小山小	本山久美子	通常学級における特別な教育的支援のあり方について	関東方面	未定
4	豊丘小	中島洋一	「社会科授業づくり」について 参観と研究会を通して、学びを深める。言語活動に焦点を当てて取り組む。	筑波大 附属小学校	7月25日
5	小布施中	新井孝之	部落解放、差別解消に向け、繰り広げられた議論と、水平社運動統一に向けて行われた活動の研修、大阪人権博物館長、朝治武さんの講演会への参加	奈良県御所市 水平社博物館	8/9・10
6	小布施中	佐藤厚彦	文部科学省、日本学校体育研究連合会主催の全国学校体育研究大会岐阜大会への参加	岐阜県	11/6・7
7	小布施中	清水あかね	第96回全国算数・数学教育研究(鳥取)大会への参加	鳥取県米子市	7/27~8/1
8	小布施中	新井秀和	羽田空港のハブ化への動きと、それに伴う物流の変化について	東京都大田区	7/27・28
9	小布施中	川上康樹	総合的な学習で生かせるように、葛飾北斎について博物館で調べる。指導者の知識を充実させることで、より深い生徒の追究を求められる。	東京	9月~10月
10	小布施中	田幸覚	同和問題を始めとする、様々な差別事象や人権侵害に対して、人権の取り組みを学び、日々の人権学習に生かしたい。	大阪人権博物館	8月~9月
11	高甫小	佐藤富美子	日本道徳基礎教育学会46回研究大会「道徳のあり方を考える」	筑波大学	7/26・27
12	墨坂中	赤羽美和子	全国技術・家庭科研究会関東ブロック大会	群馬県	11月21日
13	常盤中	遠藤和樹	「生涯スポーツを指向し、仕組みが分かり、みんなができる保健体育学習はどうあるべきか。」	関東方面	7月~8月
14	高山中	松山由美	コミュニケーションワークショップの研修	東京	8~9月
15	高山中	中村文成	ユネスコスクール、ESD実践校の視察	関東方面	9月